

平成 30 年度 茅ヶ崎市民文化祭に参加

## 写真展

平成 29 年度 鎌倉・箱根の史跡と文化財を訪ねて

鎌倉北条氏と小田原北条氏

茅ヶ崎市中島の歴史



鎌倉 建長寺三門

平成 30 年 10 月 9 日（火）～13 日（土）

10 時～16 時

（初日は 13 時から・最終日は 12 時まで）

市役所 1 階 市民ふれあいプラザ

茅ヶ崎郷土会

## あいさつ

茅ヶ崎郷土会は様々の催しを行っています。その中でも「史跡・文化財めぐり」は特に力を込めているものです。

平成 29 年度は鎌倉に 4 回、小田原に 2 回、箱根に 1 回の史跡めぐりを行いました。ここでは、訪れた先々で撮影した写真でその中の 5 回分を紹介します。

また「小田原と鎌倉の北条氏」と、進行中の「市内中島地区の歴史調査」の一部を展示に加えました。

**会員募集中**です。茅ヶ崎郷土会の活動に興味を持たれましたら、ご一緒なさいませんか。

平成 30 年 10 月 9 日 茅ヶ崎郷土会

## 1 史跡・文化財めぐり

### 280 回 鎌倉五山を訪ねる（鎌倉市） 5 月 22 日（月）晴

#### ①円覚寺 ②浄智寺 ③建長寺 ④寿福寺

鎌倉市にある、建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺の五つの臨済宗の寺院を鎌倉五山といいます。（京都にも京都五山があります）

もともと「鎌倉五山」という言葉は、日本の禅宗のうち、臨済宗の寺院を格付けをする制度のことで、「鎌倉幕府の 5 代執権・北条時頼の頃、中国の五山の制にならって導入したのが始まり。その時々に応じて加わる寺院や順位などが変動した（Wikipedia）」と解説されています。

私たちは、五月晴れの中を北鎌倉駅に集合して、鎌倉五山の中の円覚寺、浄智寺、建長寺、寿福寺の四つの寺とその途中にある建長寺の四方鎮守第六天（鎌倉市山ノ内）、岩船地藏（鎌倉市扇ガ谷 3 丁目）をまわりました。

### 281 回 小田原城とその周辺を訪ねる（小田原市） 6 月 26 日（月）曇

#### ①北条早雲公像 ②北条氏政・氏照の墓所 ③幸田口門跡 ④歴史見聞館 ⑤常盤木門・巨松（おおまつ） ⑥小田原城天守閣 ⑦土産物館外郎（ういろう） ⑧小田原宿なりわい交流館

諸般の事情により展示画像は割愛しました。

### 282 回 鎌倉に日蓮上人の足跡を訪ねる（鎌倉市） 9 月 25 日（月）晴

#### ①長勝寺 ②妙法寺 ③本興寺 ④常栄寺（ぼたもち寺） ⑤妙本寺 ⑥本覚寺 ⑦日蓮上人辻説法跡 ⑧妙隆寺 ⑨龍口寺

日蓮上人は建長 5 年(1253)5 月、安房小湊（千葉県鴨川市小湊）から鎌倉に移り、松葉ヶ谷に草庵を構え、町に出ては辻説法を行い、また『立正安国論』を執筆しました。

鎌倉市内には、日蓮の松葉が谷草庵跡と伝える寺が三か所あります。妙法寺と安国論寺と長勝寺です。いずれも開山を日蓮とし、境内に「御小庵跡」の史跡を留めています。

草庵で手がけた『立正安国論』が成就したのは文応元年(1260)のことで、前執権で幕府の最高実力者だった北条時頼に送りますが、他宗の僧らにより草庵が焼き討ちさる「松葉ヶ谷の法難」にあいます。にもかかわらず文永8年(1271)までの18年間を鎌倉で過ごし布教を続けました。

布教の中で幕府や諸宗を批判したとして文永8年9月12日(1271年10月17日)に捕らえられ、翌日、腰越の龍ノ口で斬首されそうになりますが、この法難はのがれ、佐渡へ流罪となりました。

秋晴れの日、日蓮上人の足跡をたどってゆかりの寺々をまわりました。

## 283回 塔ノ沢の阿弥陀寺と箱根湯本の早雲寺を訪ねる(箱根町)

11月27日(月)晴

### ①阿弥陀寺 ②早雲寺 ③白山神社

晩秋の一日を、“行く秋を惜しみ塔ノ沢の秋景に涙しよう”と箱根町を訪ねました。

午前中に山林の散策を兼ねて塔ノ峰の中腹にある阿弥陀寺におまいりし、午後は箱根湯本の早雲寺の境内を散策しました。

阿弥陀寺は回国聖の弾誓上人(たんせいしょうにん)が開いた寺として知られています。また最近、住職 水野賢世さんが演奏する琵琶の音色を楽しむことができる寺としても有名です。

早雲寺は北条早雲が開創した寺院で、早雲に始まる北条五代の霊をまつています。

コースの途中には急な坂道もありましたが、気持ちの良い一日を過ごしました。

## 284回 鎌倉の廃寺跡を訪ねる(鎌倉市) 12月25日(月)晴

### ①理智光寺跡 ②永福寺跡 ③鎌倉宮 ④法華堂跡(持仏堂跡) ⑤太平寺跡 ⑥宝戒寺 ⑦東勝寺跡

暮れも押し詰まった12月25日、参加者は少なかったですが、鎌倉の廃寺跡をめぐりました。

予定ではコースは①理智光寺跡、②永福寺跡、③鎌倉宮、④法華堂跡(持仏堂跡)、⑤太平寺跡、⑥宝戒寺、⑦東勝寺跡としました。

鎌倉宮や宝戒寺は廃寺ではありませんが、話の続き具合と道順の関係からコースに取り込んだものです。

訪ねたのは上記のとおりですが、ここでは⑥宝戒寺を除外し、①理智光寺の願行上人との関係から大楽寺跡を加え、また記述の順番を、回った順番と違えました。これは内容の関連する見学地を連続させたためです。

展示した写真のキャプションと当会のホームページ記事を書くについて『鎌倉廃寺事典』(昭和55年有隣堂刊)を大いに参照しました。

## 285回 曾我梅林の流鏑馬を訪ねる（小田原市）平成30年2月11日（日）晴

①宗我神社 ②法輪寺 ③城前寺 ④雄山荘跡 ⑤しだれ梅 ⑥大運寺跡 ⑦別所、辻の石仏 ⑧下曾我の流鏑馬

諸般の事情により展示は割愛しました。

## 286回 鎌倉に太平記の舞台を訪ねる（鎌倉市）3月26日（月）晴

①源氏山公園の頼朝公の像 ②日野俊基墓 ③葛原岡神社 ④銭洗弁財天宇賀福神社 ⑤極楽寺 ⑦稲村ヶ崎

『太平記』は鎌倉幕府の滅亡から後醍醐天皇の建武の新政を経て、南北朝時代の中頃までの歴史を記しています。

その始まりの部分には、新田義貞の鎌倉攻めや、それに伴う幕府方北条一門の滅亡が戦乱の様々とともに述べられていて、鎌倉市内の各所が出てきます。

これら『太平記』の舞台となった所を訪ねました。

源氏山公園の頼朝公の像、日野俊基墓、葛原岡神社（くずはらおかじんじゃ）を過ぎ、銭洗弁財天宇賀福神社の脇の坂道を下り、江ノ電の和田塚駅まで歩き、そこから極楽寺駅までは電車に乗り、南に下って稲村ヶ崎で解散というコースでした。

天気の良い晩春の一日、満開の桜の下を歩く楽しい催しでした。

-----上記の様子は当会のホームページに掲載しています-----

## 2 鎌倉北条氏と小田原北条氏

### 2-1 鎌倉北条氏

#### 1、北条氏の出自

〈平直方が乱を鎮められず、解任され、子孫が伊豆に土着、北条氏に〉

平治の乱の後、源頼朝が伊豆蛭ヶ小島に流された時、初代時政は伊豆の小さな在庁官人でした。時政の五代前が平家の嫡流平直方と言われます。直方は平忠常の乱を鎮定できず追討使の職を解かれ、乱を鎮定した源頼信の嫡男頼義に鎌倉の館を譲ると共に、自分の娘の女婿に迎えた、その間に生まれた子が八幡太郎義家で、源氏が東国に勢力を張るきっかけとなった、一方直方の子孫は伊豆に土着し、以後北条氏となったと言われています。

#### 2、北条時政の、頼朝死亡までの動き

##### ①挙兵まで

〈娘のため、伊東祐親は頼朝を殺そうとし、時政は許し、挙兵を助けた〉

流罪人頼朝の伊豆での監視役が伊東祐親と北条時政であり、両氏が京都大番役で不在中に頼朝は各々の娘と通じ、子供が生まれた。両氏とも平氏を恐れ、特に祐親は子供を殺し頼朝も殺そうとした。時政も二人の仲を許さなかったが、頼朝と政子

が逃れたためやむなく認めた。時政は頼朝の挙兵を助け、鎌倉幕府の重要人物になり、祐親は終生頼朝と対立し、捕らえられ、許されるもよしとせず自殺した。

## ②頼朝死亡まで

〈義経追捕、頼朝の代官で上洛、守護地頭の設置権を認めさせる〉

時政は頼朝在世中には、幕府内では特段の役も与えられないままであった。文治元年（1185）10月義経に頼朝追討の宣旨が下されると、11月には頼朝の代官として上洛、義経の追捕、後白河院近臣の処分、京都周辺の治安維持などにあたった。時政の政治的な凄さは後白河院が時政に7ヶ国の地頭職を与えた時、辞退し鎌倉に下向したことである。これは頼朝に疑惑を持たれないための配慮である。義経追討に名を借り、守護地頭の設置権を認めさせたことは、時政の政治力を表す一端でもある。近年この年をもって鎌倉幕府成立とみなす意見が多い。

## 3、北条氏主導の主な乱と主導者

### ①梶原景時の失脚と一族の滅亡 一阿波局（時政の娘）、北条時政

〈阿波局の耳打ちに、景時苦心の讒言も通じず、駿河で討たれる〉

正治元年（1199）10月、結城朝光の発した「忠臣は二君に仕えず」の言葉から、景時が二代将軍頼家に讒言し、朝光は近日中に断罪されると阿波局に吹き込まれ、焦った朝光が三浦、和田、安達等に相談の結果、梶原景時弾劾に結びついた。景時は鎌倉を退去し、翌正治2年正月上洛の途次、一族もろとも駿河で討たれた。頼家近臣の片腕がもがれたのである。

### ②比企氏の乱と二代将軍頼家の殺害 一北条政子、北条時政、義時

〈比企能員は、時政の仏像供養に招かれ、ホトケにされる〉

建仁3年（1203）9月、比企能員は北条時政に謀殺され、さらに比企一族は頼家の子一幡とその母若狭局ほかを籠る小御所（現、妙本寺）を攻撃され滅びた。この時の北条義時軍には、平賀、小山、結城、畠山、三浦、和田、土肥、等有力御家人の多くがおり、比企側は能員の猶子河原田朝綱の他、能員女婿笠原親景、中山為重、糟屋有季などと児玉党と言われる。

〈政子は実子よりも実家を取り、頼家を幽閉の上暗殺する〉

これより先、頼家は同年7月に病で一時重体となり後継問題が話題となるなか、讓補の沙汰が行われた。『吾妻鏡』8月27日条によれば実朝に関西38ヶ国の地頭職を、子一幡に関東28ヶ国の地頭職と日本国惣守護職を譲る。その内容に不満を持つ比企能員が病床の頼家に北条氏を討つための献策をしているところを政子が聞きつけた。政子は時政、義時に比企一族を討たせ、頼家を出家させたうえ修善寺に幽閉、翌年殺害した。時に頼家23歳のことという。（これで、北条時政は将軍の外戚政所別当として幕府の実権を握った）

### ③畠山重忠の乱（？） 一北条時政、後妻牧方、義時、時房

〈時政の陰謀、平服の重忠を万騎で討ち、子の重保は鎌倉で討たれる〉

建仁3年（1203）10月、3代将軍実朝（12歳）は武蔵国武士団に北条時政の指揮下に入るように命じた。武蔵の有力武士団である畠山一族との軋轢と畠山一族内の

対立を生むこととなった。元久2年（1205）6月、畠山重忠に謀反の疑いありとの牧方と畠山一族の稲毛重成（牧方の娘婿）の訴えにより畠山重忠は二俣川で戦死した。

重忠は無実を訴えるため僅か134騎で、平服のままだったと伝わる。

直後に畠山重忠謀反は嘘とされ、密訴した稲毛重成一族は鎌倉の各所で斬殺され、北条時政、牧方は伊豆国北条に隠退、代わって義時が2代執権となった。（これで武蔵国の有力武士団はほぼ壊滅、北条氏が武蔵守となった）

#### ④和田合戦 一北条義時、三浦義村

〈義時の挑発、豪気な義盛を走らすも、三浦の犬は走らず〉

建保元年（1213）2月、信濃国住人泉親衡の陰謀事件が発覚し、その計画に和田義盛の子義直、義重と甥の胤長が加わっていたため、北条義時は好機として和田義盛への挑発を繰り返した。そのため遂に和田義盛は同年5月2日に決起したが、一族の三浦義村の裏切りで、奮戦するも壊滅した。この戦いでは多くの相模武士団が和田方で戦い壊滅した。

（この結果、和田義盛の侍所別当も北条義時が手に入れ、政所別当と併せて幕府内の権力を完全なものとした。さらに、六浦や山内など鎌倉近辺の重要地〈義盛の旧領〉も北条一族と義時領となった）

#### ⑤ 3代将軍源実朝の暗殺 一公暁、三浦義村、北条義時

〈実朝は父の敵として公暁に討たれ、義時は戌神に救われる〉

承久元年（1219）正月、源頼家の遺児公暁が実朝暗殺事件を起こすこの日、鶴岡八幡宮で将軍実朝の右大臣拝賀の儀式が行われた。北条義時はこれに供奉し、実朝の御剣役を務めていたが、急病により源仲章と変わった。このため源仲章は実朝と共に殺害され、義時は免れた。（このことから義時が事前に計画を知っていたとか、公暁が三浦屋敷に逃げた事から三浦陰謀説などもあるが不確かである）

#### ⑥承久の乱 一後鳥羽上皇、北条政子、北条義時

承久3年（1221）5月、後鳥羽上皇により北条義時追討の院宣が発せられた。

〈政子の機転、御恩と奉公の大演説、畿内、西国、九州にも北条の旗〉

畿内近国の武士、僧兵、北条氏に不満を持つ西国武士団などが上皇方に付いたが鳥合の衆で、幕府軍のまえに敗れた。後鳥羽上皇など三上皇が遠島となり、大内氏以下西国の有力武士団は領地を召し上げられ、多くが北条氏以下の鎌倉武士団の領地となった。京都には六波羅探題が置かれ、これ以後朝廷内の事案にも幕府の容喙（ようかい=差し出口）を許すこととなった。

#### ⑦ 宝治合戦 一三浦泰村、光村、北条時頼、安達景盛

〈宮騒動、残るは三浦だけとなり、安達入道、時頼を動かす〉

北条氏は宝治元年（1247）6月、三浦泰村、光村等三浦一族を滅ぼしたが、その主導的な役割を果たしたのが、5代執権北条時頼の外戚（母が安達景盛の娘）安達氏である。

これより前、寛元4年(1246)5月、時頼は名越光時を出家・配流に追い込み、名越時幸を自害させた。7月には大殿・九条頼経を京都に送還した。この政変を宮騒動という。これで反執権派に残るのは有力御家人の三浦氏(三浦光村は頼経の側近)のみとなり、宝治合戦はこの翌年におこる。

#### ⑧ 霜月騒動 一安達泰盛一族、平頼綱、北条貞時

〈若い執権貞時、平頼綱の口車に、母、妻の外戚安達氏を討たせる〉

弘安8年(1285)11月、安達泰盛は御内人の代表平頼綱に殺害され、同時に一族ほか安達側の有力御家人が滅んだ。9代執権北条貞時15歳の時である。(安達氏が執権に取って代わろうとしている、との口車にだまされる)

安達氏は、5代執権時頼の母(松下禪尼)、8代執権時宗の妻で9代執権貞時の母(堀内殿、泰盛の妹)、貞時の妻(兄景村の孫娘)など外戚としてまた、政村、時宗、貞時の三代にわたって幕府の重要な地位を占めていた。

#### ⑨ 平禅門の乱 一平頼綱、北条貞時

〈頼綱の恐怖政治に、8年後の貞時がようやく粛清する〉

永仁元年(1293)4月、平頼綱は9代執権北条貞時により自害させられた。平頼綱は安達泰盛を滅ぼしたあと幕政の実権を握り恐怖政治を行っていた。得宗被官、平頼綱の専横ぶりを苦々しくおもっていた23歳の執権貞時が実権を取り返した。これで、御内人の勢力もそがれた。

以下は北条氏主導でないが、重要事件を記す。

#### ⑩ 元寇(文永、弘安の役) 北条時宗、蒙古軍

〈元の臣従強制退け、非御家人も支配下に、恩賞で苦しむ〉

北条時宗は文永5年閏正月、蒙古の国書が鎌倉に届くと3月には18歳で8代執権となった。14歳の時、時宗連署、政村執権となっていたのを交代した。

文永9年(1272)2月には時宗は北条氏有力庶家名越時章、教時兄弟と時宗の庶兄時輔を討ち(二月騒動)、敵対勢力を一掃した。

文永11年(1274)10月、文永の役起こる。

このころ、それまで統制外にあった「本所一円之地住人」(非御家人)にも対蒙古防衛を理由に軍事動員がなされ、全武士階級が幕府の支配下に入った。

弘安4年(1281)弘安の役起こる。

#### ⑪ 鎌倉幕府滅亡 一新田義貞、北条高時、北条一族

〈新田義貞、黄金の太刀、龍神を味方に鎌倉城を崩す、北条一族東勝寺にて滅ぶ〉

元弘3年(1333)5月、新田義貞の攻撃により、得宗北条高時以下一族郎党が東勝寺で自刃し、鎌倉幕府は滅んだ。

#### ※参考文献

- ・『鎌倉将軍・執権・連署列伝』日本史史料研究会(監修)細川重男(編)
- ・『もっと行きたい鎌倉歴史散歩』奥富敬之著 新人物文庫
- ・『北条時宗と蒙古襲来』村井章介 NHK Books

## 2-2 小田原北条氏

### 小田原北条氏 ウィキペディア

戦国時代の小田原は、伊勢宗瑞に始まる小田原北条氏の本拠地でした。2代氏綱は小田原を本拠として北条氏約100年の礎を築き、3代氏康の代には関東最大の戦国大名へと成長しました。4代氏政の代には上杉謙信、武田信玄を籠城戦で退、5代氏直の代には小田原城を周囲9kmに及ぶ総構で囲んだ日本最大級の城へと拡張しました。

### 各代の勢力範囲 『小田原城天守閣展示案内』

初代北条早雲は堀越公方を滅ぼして葦山城を拠点とし、元亀元年（1501）までに小田原城に入ります。伊豆、相模二か国を平定。2代氏綱は小田原を本拠地として武蔵国南部（東京都、埼玉県の一部）まで勢力を上げ、下総国（千葉県）にも進出、西は駿河国（静岡県）まで拡大した。3代氏康は駿河国は失いますが武蔵国を平定、山内上杉氏を越後に追い、上野国（群馬県）にも進出。隠居後も上杉謙信、武田信玄を迎え撃ち南関東支配の基盤を築く。4代氏政は上野国・常陸国（茨城県）方面にも勢力を上げ、天正8年（1580）には織田信長に従属、その配下として領国統治を目指した。5代氏直は本能寺の変により織田軍の撤退に乗じて、信濃国（長野県）に兵を進め小田原北条氏は最大版図となりました。しかし天正18年（1590）に豊臣秀吉の前に滅亡してしまいました。

### 小田原北条氏の出自 『小田原城天守閣展示案内』

北条早雲の出自については、良質な資料では備中伊勢氏の出身とするものがほとんどです。ところが明治時代以降になると、伊勢の素浪人説などが有力視されるようになりました。しかし現在では備中国高越城（井原氏）城主である伊勢盛定の子である伊勢新九郎盛時がのちの伊勢宗瑞（北条早雲）であるとの説が有力。

### 北条早雲 永享4年（1432）？—永正16年（1519） ウィキペディア

室町時代中後期（戦国時代後期）の武将で、戦国大名となった小田原北条氏の祖である。伊勢宗瑞とも呼ばれる。北条早雲は戦国大名の嚆矢であり、早雲の活動は東国の戦国時代の端緒として歴史的意義がある。

### 早雲寺殿廿一箇条 『小田原城展示案内』

宗瑞が定めたと伝えられる家訓で『北条五代記』に全文が収められています。質素を心がけ、領民に対して誠実であるべきことなど、五代にわたり継承された小田原北条氏の家法となりました。

### 早雲寺 ウィキペディア



神奈川県足柄下郡箱根町湯本にある臨濟宗大徳寺派の寺院。山号は金湯山。本尊は釈迦如来。寺内には小田原北条氏5代の墓、連歌師宗祇の碑がある。国の重要文化財の織物張文台及硯箱、北条早雲肖像画、県指定文化財の北条氏綱・氏康らの肖像画がある。

**北条氏綱** 長享元年（1487）—天文10年（1541） ウィキペディア

戦国時代の武将・戦国大名。小田原北条氏第2代当主。伊豆国・相模国を平定した早雲のあとを継いで領国を武蔵半国・下総の一部そして駿河半国にまで拡大させた。また「勝って兜の緒を締めよ」の遺言でも知られる。小田原北条氏を関東随一の戦国大名へと成長させた。伊勢氏から北条氏への改姓、虎の印判の使用を開始する。

**北条氏への改姓** 『小田原城展示案内』

大永3年（1523）氏綱は「伊勢」から「北条」へと改姓します。西国出身の伊勢氏は関東において「他国之逆徒」などと称され、他所からの侵略者と評価されていた。小田原を本拠と定めた氏綱は鎌倉幕府執権北条氏の名跡を継承することで、関東支配の正当性を主張した。

**虎の印判** 『小田原城展示案内』

氏綱が創始し5代氏直に至るまで用いられた小田原北条氏歴代当主の家印。「禄寿応穩」という印文の上に虎の姿が記されており、「虎の御印判」と呼称されていた。これにより北条氏の意図による領国支配体制を郷村の隅々まで、浸透させることが出来た。

**北条氏康** 永正12年（1515）—元龜2年（1571） ウィキペディア

小田原北条氏第3代目当主。関東から山内・扇谷上杉氏を追うなど外征に実績を残すと共に、武田氏・今川氏との間に甲相駿三国同盟を結んで関東を支配し、上杉謙信を退けた。「北条家所領役帳」を作成したりして政治的手腕も発揮しました。

**相甲駿三国同盟** 『小田原城展示案内』

相模国の北条氏康、甲斐国の武田信玄、駿河国の今川義元により結ばれた軍事同盟で、天文21年（1552）から同23年にかけて互いの嫡子に娘を嫁がせ、強固な盟約を成立させた。互いに連携したので東国情勢に大きな影響を与えた。

**「北条家所領役帳」** 『小田原城展示案内』

永禄2年（1559）に北条氏康が作成させた基本台帳。家臣に対する役負担を明確にするため、「小田原衆」などと呼ぶ軍団が構成され、家臣毎に所領の貫高と所在地が記されて、普請役（労役）の付加状況が記載されている。

**北条氏政** 天文7年（1538）—天正18年（1590） ウィキペディア

小田原北条氏第4代目の当主。北条氏の勢力拡大に努め最大版図を築くが豊臣秀吉が台頭すると小田原征伐を招き、数か月後の籠城の末に降伏して切腹し、小田原北条氏による関東支配は終結した。

### 氏政を支えた兄弟 『小田原城展示案内』

氏政は男子8人、女子7人の兄弟が確認できます。弟の氏照は八王子城、氏邦は鉢形城（埼玉県寄居町）、氏規は三崎城主を務め、景虎は上杉謙信の養子になっています。彼らは団結して小田原の当主を助け、軍事・外交・内政など多方面にわたって大きな役割を担いました。特に氏照は氏政と共に責めを負って切腹しました。

### 北条氏直 永禄5年（1562）—天正19年（1591） ウィキペディア

小田原北条氏第5代目当主。父氏政と共に最大版図を築き上げたが、外交の失敗で豊臣秀吉の小田原征伐を招き、北条氏の関東支配は終結した。この征伐に備えて、周囲9kmに及ぶ総構を構築しました。堀は北条氏が多用した「障子堀」が採用され、斜面も水堀（泥堀）として敵の動きを封じた。

### 小田原合戦 ウィキペディア

天正18年（1590）に豊臣秀吉が北条氏を征伐した戦役。秀吉が下した裁定に北条氏が不満を示したために起った戦い。秀吉は北条氏征伐に関する天皇の勅書が貰えなかったため、関白であった秀吉は天皇の施策遂行者として臨んだ為、全国の武将を味方につけた。小田原城の攻囲戦だけでなく並行して小田原北条氏領土の攻略戦もこの戦役に含まれています。

### 小田原合戦への道 『小田原城展示案内』

三国同盟が破棄され甲越同盟を結ぶ上杉景勝と武田勝頼の攻勢にさらされた北条氏は織田信長への従属を決断した。しかし、信長の死で織田領の所領を巡って関東に残った織田軍の滝川一益と合戦、滝川軍を破った北条軍は破竹の勢いで在地の中小領主を配下に加え、徳川家康と対峙した。その後家康とは和睦をしたが、秀吉と対立したので北条氏と対立する関東の諸勢力は秀吉と結び、関東地方の政治状況は新たな局面を迎えます。

### 北条方の戦力・戦術 『小田原城展示案内』

北条氏の戦力は3万4千騎と推定され、小田原城と主要な支城に配置されました。北条氏が選択した戦術は豊臣方の大軍を領内深く引き入れそれぞれの城郭で籠城戦を展開し、豊臣方の戦力が分散した所を支城同士の連携により挟撃するというものでした。しかし豊臣方の大軍により小田原城が早々に囲まれてしまったため、苦しい戦いを強いられる状況となりました。

### 豊臣方の戦力・戦術 『小田原城展示案内』

小田原合戦を天下統一の総仕上げと位置づけた秀吉は、これまでに従えた各地の諸大名に出陣を命じた。これにより21万人ともいわれる軍勢を動員、豊臣方は秀吉自身が率いる本体が東海道を進んで、早々に小田原城を包囲、北条方の動きを封

じると、前田利家・徳川家康らの参陣武将に支城の攻略を命じた。海上には、水軍を配して封鎖するとともに、物資の輸送に当たらせ豊富な物量による大軍の長陣を可能にした。

## 両陣営の戦力の比較 『小田原城展示案内』

展示場の両陣営の「戦力比較表」をご覧ください。

## 小田原城 ウィキペディア

神奈川県小田原市にあった戦国時代から江戸時代にかけての平山城で、小田原北条氏の本拠地として有名である。江戸時代には小田原藩の藩庁があった。城跡は国の史跡に指定されています。

## 二の丸御殿跡

小田原城には、将軍の宿専用の「本丸御殿」と藩主の居館や行政を行なう政庁である「二の丸御殿」があった。元禄16年（1703）に起きた大地震で小田原城は甚大な被害を受け、「二の丸御殿」も倒壊炎上したが、近年試掘調査された。

## 全国「天守」高さ比べ 『小田原城展示案内』

天守とは城郭内の象徴的な建物で、その城郭内で一番高い建物です。当初は居住空間として利用されていましたが、江戸時代になると倉庫などに利用された。江戸時代の小田原城天守は三重4階でした。小田原城は平面積が大きい為、余り大きく見えませんが石垣の上からの高さは27.2mで、全国7番目の高さを誇ります。

## 小田原城総構 ウィキペディア

小田原城総構は中核部が二の丸総堀、三の丸総堀、総構堀によって三重に囲われた構造になっています。小峰大堀切は中世城郭部最大の遺構である。総構堀は小田原の町全体を取り囲んだ連続した空堀と水堀である。北西部の桜馬場・稻荷森の総構堀は比較的良く残る。平地部の水堀は消滅或は暗渠化した。南西部の早川口や東部の蓮上院近辺にかろうじて土塁が残っている。

## 小田原城門

本丸正面にある常盤木門は昭和46年（1971）復興。門の傍らに立つ巨松（おおまつ）にちなんでその名が付けられたと伝えられている。二の丸の表門に当たる銅門は本丸へと通じる大手筋に設けられた枡形門。平成9年（1997）復元。二の丸正面に位置する馬出門は、馬出門と内冠木門（うちかぶきもん）の2つの門を配置した構造。平成21年（2009）復元。

源 邦章

## 3 茅ヶ崎 23ヶ村調査 中島の歴史

平成29年4月から始めた「茅ヶ崎市中島の歴史調査勉強会」は、ほぼ月に2回ずつ活動していますので30回を越えました。

「茅ヶ崎郷土会」と「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会」の共同事業です。

市内にある江戸時代の村、23ヶ村の歴史を、村ごとに調べて書き残そうという目的です。歴史学の専門家はいないので勉強しながら進めています。地元の方々に話を聞いたり、現地を歩いたり、茅ヶ崎市史などの関係する文献に当たったりして楽しみながら回を重ねています。

まず中島村から始めました。途中ですがここにその一部を展示します。

- ①明治16年(1883)の地図に現れた中島
- ②江戸時代の高座郡図3枚
- ③『新編相模国風土記稿』に載る相模川河口の図
- ④昭和22年(1947)と平成2年(1990)の航空写真
- ⑤明治42年(1909)から平成2年までの地図に見る中島の変化
- ⑥中島中学校
- ⑦相模川の浸水想定図2枚
- ⑧中島を囲む堤防
- ⑨馬入橋のこと
- ⑩馬入の渡し
- ⑪鎮守の日枝神社
- ⑫浄林寺
- ⑬サイノカミ(道祖神)とそのまつり
- ⑭中島から見た富士山
- ⑮鶴嶺地区の小学校・中学校の変遷図

(茅ヶ崎23ヶ村調査勉強会参加者一同)



明治16年測量迅測図『地図集 大地が語る歴史』41頁・44頁合成